

第2期南極ドームふじ氷床コアによる気候・環境変動の復元

Latest results from the 2nd deep ice core drilled at Dome Fuji, Antarctica

東 久美子 [1]; ドームふじ氷床深層コア掘削・研究グループ 本山秀明 [2]

Kumiko Goto-Azuma[1]; Motoyama Hideaki Members of the Dome Fuji ice core drilling and ice core studies[2]

[1] 極地研; [2] -

[1] NIPR; [2] -

<http://www.nipr.ac.jp/japan/>

日本の南極観測隊は第2期ドームふじ深層コア掘削計画の下で、2007年1月に3035.22m深のコアの掘削に成功した。2006年4月に2400~3028mの深さのコアを国内に持ち帰り、2007年4月に最深部までのコアを国内に持ち帰る予定である。2006年4月にドームふじコアの研究母体であるアイスコアコンソーシアム（ICC）が改編され、ICC内に化学解析研究グループ、物理解析研究グループ、ガス解析研究グループ、新領域研究グループ、年代決定研究グループの5つの研究グループが設置された。2006年5月から新しい研究組織によってドームふじコアの解析研究が進められている。現在、化学解析研究グループは、国立極地研究所において第2期ドームふじコアの酸素・水素同位体、イオン、固体微粒子等の解析を実施している。これ以外の化学解析、物理解析、ガス解析、宇宙線生成核種解析、宇宙塵解析等も、多数の大学や研究機関の共同研究により実施している。コアの年代決定に関しては、外国人や氷床流動モデル研究者も含むグループが研究を進めている。本報告では、国立極地研究所で実施している解析を中心とする最新の結果を報告する。